

【技術の名称】 NewPPG工法 －先端翼付き回転貫入鋼管杭工法－	性能証明番号：GBRC 性能証明 第22-09号 性能証明発効日：2022年7月6日
	【取得者】 株式会社トラバース

【技術の概要】

本技術は、鋼管に先端翼を溶接接合し、この鋼管を回転させることによって地盤中に貫入させ、これを杭として利用する技術である。

なお、本工法の地盤から決まる押込み方向の鉛直支持力については、国土交通大臣の認定：TACP-0647, 0648（令和4年6月9日）、および一般財団法人日本建築総合試験所の性能評価：GBRC 建評-21-231A-010, 011（2022年4月12日）を取得しており、この性能証明は、本技術により設計・施工された杭の地盤から決まる引抜き方向の支持力に関するものである。

【技術開発の趣旨】

本技術は、一つの杭径に対し複数の先端翼径仕様を用意し、設計荷重に応じた合理的な設計を可能としている。また、先端翼の折り曲げと先端翼下部に設けた独自形状の掘削翼により、掘削時の貫入力を高め、施工性の改善を図っている。

【性能証明の内容】

本技術についての性能証明の内容は、単杭としての引抜き方向の支持力についてのみを対象としており、以下の通りである。

申込者が提案する「NewPPG工法 設計指針」および「NewPPG工法 施工指針」に従って設計・施工された先端翼付き鋼管杭の短期荷重に対する引抜き方向の支持力を定める際に必要な地盤から定まる極限引抜き抵抗力は、同設計指針に定める標準貫入試験の結果に基づく支持力算定式で適切に評価できる。

表1 杭の施工深さ

杭軸径 mm	拡翼径 mm	杭長 m
139.8	400	5.00～18.17
165.2	450	5.00～21.47
190.7	480/570	5.00～24.79
216.3	540/650	5.00～28.11
267.4	670/800	5.00～34.76
318.5	800/950	5.00 [*] ～41.40 (砂質地盤(礫質地盤を含む)は38.70)

※6.25Dw以上。



写真1 杭の施工状況

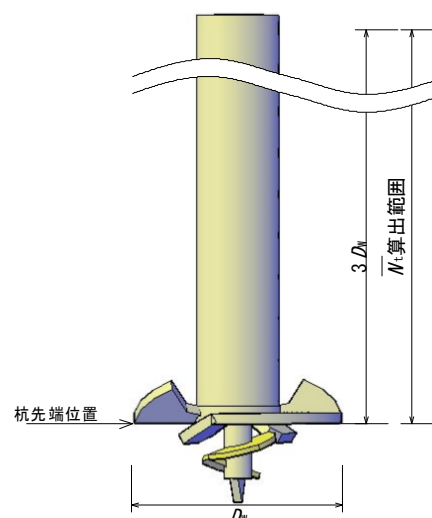


図1 杭姿図及び先端平均N値の算出範囲

【本技術の問合せ先】

株式会社トラバース 担当者：高橋 健二

〒272-0121 千葉県市川市末広2丁目4番10号

E-mail：takahashi.kenji@travers.co.jp

TEL：047-359-4111